

# 腎機能低下時に最も注意の必要な薬剤投与量一覧

(2019改訂32版)一覧表を学会の許可なく無断引用してはならない

CRで表示している添付文書における血清クレアチニン値測定法は多くがJaffe法によるものであるため、CRとGFRと考えてよいものが多い。そのため本表ではCRまたはGFRと表記されているが、基本的に患者の腎機能は虚設で栄養状態の悪い患者を除き、体表面積を補正eGFR(mL/min)によって腎機能を推察する。eGFR(mL/min)は多くの薬物の添付文書のCR表示と同等に換えてよい。虚設で筋肉量の少ない患者では原則による実測CR×0.716によりGFRとして評価するか、シスタチンによる体表面積未補正eGFRを算出して腎機能を推察する。GFRまたはCRの単位は基本としてmL/minを用いるが、投与量がmg/kgやmg/m<sup>2</sup>のように固定用量ではない場合にはmL/min/1.73m<sup>2</sup>を用いる。  
 透析性:通常の血液透析によって除去される(除去率40%以上)ものは○、除去されないものは×としている。  
 禁忌:高度腎機能障害や透析患者など腎機能の低下した患者に添付文書上、投与禁忌の記載のあるものには「禁」をつけている。  
 腎障害:複数の重要な高い薬剤性腎障害に関する総説で、薬剤性腎障害の原因薬物となるものには腎障害の項に「○」をつけている。アレルギー性の腎障害は除いている。  
 本表の作成にあたっては、記載ミスのないよう最大限の努力をしていますが、新規性、正確性、完全性については当学会が保証することはできないので、最新の情報を手入れしてください。  
 また、この一覧表は小児には適応していません。

分類	一般名	番号	商品名	透析性	禁忌	常用量							HD(血液透析) PD(腹膜透析)			
						GFRまたはCR(mL/min)										
						>80	70	60	50	40	30	20		10>		
正常または軽度低下						軽度～中等度低		中等度～高度低		高度低下		末期腎不全				
5-HT <sub>1A</sub> 受容体作動型片頭痛治療薬	リゾトリプタン安息香酸塩	1	マクサルト錠/RPD錠	×	禁	1日10mg、前回投与から2時間以上あけると、最大1日20mg							腎機能正常者と同じ	禁忌(AUCが上昇する)		
600mg	プレガバリン	2	リリカプセル	○	禁	①神経障害性疼痛:初期用量1日150mgを分2、その後1週間以上かけて1日量として300mgまで漸増、最大1日600mg ②線維筋痛症に伴う疼痛:初期用量1日150mgを分2、その後1週間以上かけて1日量として300mgまで漸増し、300～450mgで維持、最大1日450mg							①初期用量1日75mgを分1又は分3、維持量1日150mgを分2又は分3 ②初期用量1日75mgを分1又は分3、維持量1日150mgを分2又は分3、最大1日225mgを分3	①初期用量1日25～50mgを分1又は分2、維持量1日75mgを分1、最大1日150mgを分1 ②初期用量1日25mgを分1、維持量25～50mgを分1、最大1日50～75mgを分1 ③初期用量1日25mgを分1、維持量25～50mgを分1、最大1日50mgを分1、又は1日150mgを分2	①②初期用量25mgを分1、維持量25～75mgを分1、HD後の補充用量は投与量に25～150mgをHDに補充 PDでは初期用量25mgを分1、維持量25～75mgを分1	
抗リウマチ薬(JAK阻害薬)	バリンチニブ	3	オルミン錠	△	○	1日4mgを分1、患者の状態に応じて2mgに減量。							1日2mgを分1	副作用が強くあらわれることがあるため投与しない		
抗リウマチ薬(DMAPs)	アクタリット	4	オール錠/モーバー錠	○	○	1日300mgを分3							1日100mgを分1	ほぼ100%尿中排泄されるが薬物動態情報がほとんどないため避けようがない		
	オーラフィン	5	オーラフィン錠	×	禁	1日6mgを分2、朝夕食後、最大1日6mg							禁忌			
	ブシラミン	6	リマチ錠	○	禁	1日300mgを分3、食後、最大1日300mg							禁忌(ネフローゼ症候群等の重篤な腎障害を起こすおそれがある)	腎機能の廃絶した透析患者の用量は1日100mgを週3回HD後		
	ベニシラミン	7	メタルカプラーゼカプセル	×	禁	①関節リウマチ:[50,100mg]1回100mgを1日1～3回、食前空腹時、1日量100mgより開始し、増量するときは4週間以上の間隔を空けて100mgずつ漸増し、最大1日600mgまで増量可 ②ウレタン、鉛、水銀、銅の中毒:[200mg]1日1,000mgを食前空腹時に1～数回に分割、1日量600～1,400mgの範囲で増減							禁忌(腎障害を起こすおそれがある)		1日50mgで無顆粒球症の報告があるため避ける	
	メトトレキサート	8	リウマトレックスカプセル	○	禁	①関節リウマチ:6mg/週を開始し、4～8週間経過しても効果不十分であれば8～16mg/週まで増量、1週間あたりの投与量1～3回に分割し、12時間間隔で1～2日間かけて投与(関節リウマチ治療におけるメトトレキサート診療ガイドライン、日本リウマチ学会2010)							低用量から開始し、最初から薬物の併用が望ましい(関節リウマチ治療におけるメトトレキサート診療ガイドライン、日本リウマチ学会2010)		禁忌(関節リウマチ治療におけるメトトレキサート診療ガイドライン、日本リウマチ学会2010)	
高尿酸血症治療薬	アロプリノール	9	ザイロリック錠	○	○	1日200～300mgを分2～3、食後							1日100mgを分1	1日50mgを分1	HD患者では1回100mgを週3回、毎HD後、CAPD患者では1日50mgを分1 ただし、この用量では適正な尿酸値にコントロールできない場合が多い	
痛風治療薬	コルヒチン	10	コルヒチン錠	×	禁	①痛風発作の緩解及び予防:1日3～4mgを分6～8、痛風発作の緩解には1日1.8mgまで。発病予防には1日0.5～1mg、発作予感時には1回0.5mg ②家族性地中海熱:1日0.5mgを分1～2、1日最大投与量は1.5mg							連続投与は推奨できない。腎障害がありCYP3A4阻害薬(アザナビル、クラリスロマイシン、インジナビル、イトラコナゾール、ネルフィナビル、リトナビル、サキナビル、ダルナビル、アラプリル、コキシスタットなど)、P-gp阻害薬(シクロスポリン)併用患者は禁忌			
ベンゾジアゼピン系鎮静薬	ミダゾラム	11	ドルミカム注	×	禁	添付文書参照							腎機能正常者と同じ	活性代謝物が蓄積するため50%に減量		
定型抗精神病薬	スルピリド	12	ドグマチール錠・カプセル・細粒	○	○	①胃・十二指腸潰瘍:[50mg]1日150mgを分3 ②統合失調症:[50,100,200mg]1日300～600mgを分割投与、1日1,200mgまで増量可 ③うつ病・うつ状態:1日150～300mgを分割投与、1日600mgまで増量可							1日25～300mgを分3	1日25mgを分3	1日25mgを分1、HD患者ではHD日HD後	
	チアプリド塩酸塩	14	グラマリール錠	△	○	1日75～150mgを分3、パーキンソン症に伴うジスキネジアの患者では、1日1回25mgから開始							1日50～75mgを分2～3	1日25～50mgを分1		
	非定型抗精神病薬	ハロペリド	15	インヴェガ錠	×	禁	1日1回6mg、朝食後より開始、1日12mgを超えない範囲で適宜増減するが、増量は5日間以上の間隔を空けて1日量として3mgずつ行うこと							禁忌(本剤の排泄が遅延し血中濃度が上昇するおそれがある)		
リスパリド	16	ゼプリオン水懸液シリンジ	×	禁	初回150mg、1週間後に2回目100mgを三角筋内に投与、その後4週に1回75mgを三角筋内又は臀部筋内に投与、患者の状態により25～150mgの範囲で投与するが、増量は1回50mgまで							禁忌(本剤の排泄が遅延し血中濃度が上昇するおそれがある)				
	17	リスパリド錠・OD錠・細粒・内服液	×	禁	①統合失調症:1回1mgを1日2回より開始し、維持量1日2～6mgを分2、最大1日量12mg ②その他の適応は添付文書参照							活性代謝物が蓄積するため、1日1mgを分2より開始し、維持量2～6mgを分2、最大1日量6mg				
18	リスパリド錠コンスタ錠	×	禁	1日25mgを2週間隔で臀部筋注、最大1回量50mg							慎重投与(活性代謝物の蓄積により減量が必要と考えるが、製剤的に分割投与は推奨されていないため、半減期等に基づいて投与間隔の延長を考慮する)					
抗うつ薬(SNRI)	ベンラファキシン塩酸塩	19	イブクサーSRカプセル	×	禁	1日37.5mgを初期用量とし、1週間より1日1回75mg、食後、増量は1週間以上の間隔を空けて1日用量として75mgずつ、最大1日量225mg							50～75%に減量(Up to Date)	血中濃度が上昇するおそれがあるため血中濃度が上昇するおそれがあるため50%以下に減量(総CLが約40%低下する)	禁忌(使用経験が少なく、本剤のCLが低下し、血中濃度が上昇するおそれがあり、透析ではほとんど除去されない)	
20	サインバルタカプセル	×	禁	①うつ病・うつ状態、糖尿病性神経障害に伴う疼痛:1日40mgを分1、朝食後、1日20mgより1週間以上の間隔を空けて1日20mgずつ増量、最大1日量60mg ②線維筋痛症に伴う疼痛、慢性腰痛症に伴う疼痛、変形性関節症に伴う疼痛:1日60mgを分1、朝食後、1日20mgより1週間以上の間隔を空けて1日20mgずつ増量							中等度腎障害では薬物動態に変化が認められないため減量は不要(Clin Pharmacokinetics 49: 311 - 321, 2010)			禁忌(ほとんど尿中排泄されず、半減期も延長しないものの、AUC、C <sub>max</sub> が約2倍に上昇する) ただし、やむを得ない場合には、投与量の増加が原因と考えられることから、血中濃度上昇分を考慮し、投与量を減量することにより使用できるかもしれない。本件に関しては、情報が不足していることから、今後の検討が望まれる。		
抗うつ薬(NASSA)	ミルタザピン	21	レモン錠/リフレックス錠	×	○	1日15mgを初期用量とし、1日15～30mgを分1、就寝前、最大1日量45mg、増量は1週間以上の間隔を空けて1日用量15mgずつ							本剤のCLが低下する可能性があるため2/3に減量			
気分安定薬	炭酸リチウム	22	リマス錠	○	禁	1日400～600mgを分2～3より開始し、以後3日ないし1週間隔に1日1,200mgまで漸増、改善後は、維持量1日200～800mgを分1～3							50～75%に減量(腎障害ではリチウムが体内貯留しやすいため禁忌)			25～50%に減量(腎障害ではリチウムが体内貯留しやすいため禁忌) 1回600mgを週3回HD後という報告あり(Am J Psychiatry 167: 1409 - 1410, 2010)

分類	薬品名		通析性	禁忌	腎障害	常用量					GFRまたはGCR(mL/min)					HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号				商品名	>80	70	60	50	40	30	20	10		
							正常または軽度低下					軽度～中等度低下		中等度～高度低下		
抗てんかん薬	ガバペンチン	23	ガバペン錠	○			初日1日600 mg、2日目1日1,200 mg、3日目以降は維持量として1日1,200 - 1,800 mgをいづれも分3、最大1日量2,400 mg	初日1日400 mg、維持量として1日600 - 800 mgをいづれも分2、最大1日量1,000 mg	初日1日200 mg、維持量として1日300 - 400 mgをいづれも分1、最大1日量500 mg	初日1日200 mgを分1、維持量として1日100 - 200 mg、又は2日に1日300 mg、最大1日量200 mg	初日1日200 mgを分1、維持量として1日100 - 200 mg、又は2日に1日300 mg、最大1日量200 mg	初日1日200 mgを分1、維持量として1日100 - 200 mg、又は2日に1日300 mg、最大1日量200 mg	初日1日200 mgを分1、維持量として1日100 - 200 mg、又は2日に1日300 mg、最大1日量200 mg	初日1日200 mgを分1、維持量として1日100 - 200 mg、又は2日に1日300 mg、最大1日量200 mg	初日1日200 mgを分1、維持量として1日100 - 200 mg、又は2日に1日300 mg、最大1日量200 mg	初日1日200 mgを分1、維持量として1日100 - 200 mg、又は2日に1日300 mg、最大1日量200 mg
	ピガバリン	24	サブリン散分包	×			1日50 mg/kgから開始。3日以上の間隔をあけて1日50 mg/kgを超えない範囲で漸増、1日最大量150 mg/kg、又は13 gのいずれか低い方、いづれも分2	腎機能障害患者では低い用量で反応する可能性があり、腎機能正常者に比し中等度～重度腎障害患者ではAUCが3.5倍上昇するため、低用量からの投与開始、又は投与間隔の調節を考慮する								
	ミダゾラム	25	ミダフレッサ静注	×			静脈内投与。0.15 mg/kgを1 mg/minを目安に投与し、必要に応じて1回0.1 - 0.3 mg/kgの範囲で追加。初回と追加投与の総量は0.6 mg/kgを超えないこと。持続静脈内投与。0.1 mg/kg/hrより開始し、必要に応じて0.05 - 0.1 mg/kg/hrずつ増量。最大投与量0.4 mg/kg/hr	腎機能正常者と同じ							活性代謝物が蓄積するため50%に減量	
	レバチラセタム	26	イーケブラ錠・ドライシロップ	○			1回500 mgを1日2回、最大1回1,500 mgを1日2回	1回500 mgを1日2回、最大1回1,000 mgを1日2回	1回250 mgを1日2回、最大1回750 mgを1日2回	1回250 mgを1日2回、最大1回500 mgを1日2回	1回250 mgを1日2回、最大1回500 mgを1日2回	1回250 mgを1日2回、最大1回500 mgを1日2回	1回250 mgを1日2回、最大1回500 mgを1日2回	1回250 mgを1日2回、最大1回500 mgを1日2回	1回250 mgを1日2回、最大1回500 mgを1日2回	1回250 mgを1日2回、最大1回500 mgを1日2回
抗パーキンソン病薬	アマノタジン塩酸塩	28	シムレレ錠・細粒	×	禁		①パーキンソン病候群：初回1日100 mgを分1 - 2、1週間後に維持量1日200 mgを分2、最大1日量300 mgを分3 ②脳梗塞後遺症：1日100 - 150 mgを分2 - 3 ③インフルエンザ感染症は番号158を参照	1回100 mgを2 - 3日毎				1回50 - 100 mgを7日毎	禁忌			
	プラマベキソール塩酸塩水和物	29	ピソプロール錠	×			①パーキンソン病：1日0.25 mgより開始し、2週目に1日0.5 mgとし、1週間毎に1日量として0.5 mgずつ増量。標準維持量1日1.5 - 4.5 mg、1日量は1.5 mg未満は分2、朝夕食後、1.5 mg以上は分3、毎食後。最大1日量4.5 mg	初回1日0.25 mgを分2、最大1日量2.25 mgを分2			初回1日0.125 mgを分1、最大1日量1.5 mgを分1	十分な使用経験がないので、状態を観察しながら慎重投与				
	ミラベクスLA錠	30	ミラベクスLA錠	禁			1日0.375 mgを分1、食後から開始し、2週目に1日0.75 mgとし、1週間毎に1日量として0.75 mgずつ増量。標準維持量1日1.5 - 4.5 mg、最大1日量4.5 mg	治療開始1週間毎に0.375 mgを隔日投与し、その後1日1回投与。必要に応じて1週間毎に0.375 mgずつ増量。最大1日量2.25 mgを分1			禁忌。状態を観察しながら速効錠であるピソプロール錠を慎重投与					
ミオクロース治療薬	ピラセタム	31	ミオカム内服液	○	禁		1回12 mLを1日3回、3 - 4日間。その後病態に合わせて、1回3 mLずつ1日3回の割合で3 - 4日に増量。最高量は1回21 mLを1日3回	通常量の1/2		通常量の1/4		禁忌				
経口脊髄小脳変性症治療薬	タルチレン水和物	32	セレジ錠・OD錠	×			1日10 mgを分2、朝夕食後								重度の腎機能障害患者1名で血漿中濃度が約4.2倍上昇したことがあるため慎重投与	
自律神経系薬	ジスチグミン臭化物	33	ウブレチド錠	不明			①手術後及び神経因性膀胱などの低緊張性膀胱による排尿困難：1日5 mg ②重症筋無力症：1日5 - 20 mgを分1 - 4	①1日2.5 - 5 mgを分1 ②1日2.5 - 10 mgを分1					1日2.5 - 5 mgを分1			
	ネオスチグミンメチル硫酸塩	34	ワボスチグミン注	○			①重症筋無力症、クワレー剤による遅延性呼吸抑制、手術後及び分娩後の腸管麻痺・排尿困難：1回0.25 - 1.0 mgを1日1 - 3回皮下注又は筋注 ②非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗：1回0.5 - 2.0 mgを緩徐に静注	50%に減量				25%に減量				
	ピリドスチグミン臭化物	35	メスチン錠	不明			1日180 mgを分3								慎重投与(腎障害(腎機能不明)で半減期は約3.4倍に延長し、CLは約1/4に減少する)	
	アルツハイマー型認知症治療薬	メマンチン塩酸塩	36	メマリ錠・OD錠・ドライシロップ	×			1日1回5 mgから開始し、1週間毎に5 mgずつ増量し、維持量として1日1回20 mg	維持量1日1回10 - 20 mg				維持量1日1回10 mg	維持量1日1回10 mgまで		
強心配糖体	ジゴキシン	37	ジゴキシンKY錠・ハーフジゴキシンKY錠・ジゴキシン錠・散・エリキシル	×			急速飽和療法：初回0.5 - 1.0 mg、以後0.5 mgを6 - 8時間毎。比較的急速飽和療法・緩徐飽和療法も可。 維持療法：1日0.25 - 0.5 mg	維持療法：0.125 mgを24時間毎				維持療法：0.125 mgを48時間毎	維持療法：0.125 mgを3 - 4回			
	メチルジゴキシン	38	ジゴキシン注	×			急速飽和療法：1回0.25 - 0.5 mgを2 - 4時間毎に静注。比較的急速飽和療法・緩徐飽和療法も可。 維持療法：1日0.25 mgを静注	維持療法：0.09 mgを24時間毎				維持療法：0.09 mgを48時間毎	維持療法：0.125 mgを3 - 4回			
	ラニラジド錠	39	ラニラジド錠	×			急速飽和療法：初回0.2 - 0.3 mg、以後1回0.2 mgを1日3回。比較的急速飽和療法・緩徐飽和療法も可。 維持療法：1日0.1 - 0.2 mg	維持療法：0.05 - 0.1 mgを24時間毎				維持療法：0.025 - 0.05 mgを24 - 48時間毎	維持療法：0.05 mgを3 - 4回			
	デスラノド	40	ジギラノゲン注	×			急速飽和療法(飽和量：0.8 - 1.6 mg)：初回0.4 - 0.6 mg、以後0.2 - 0.4 mgを2 - 4時間毎に静注又は筋注。比較的急速飽和療法：1日0.4 - 0.6 mgを静注又は筋注。十分効果のあらわれるまで2 - 4日間続ける。 維持療法：1日0.2 - 0.3 mgを静注又は筋注							減量の必要はあるが、薬物動態が解明されていないため不明		
強心薬	オルプリン塩酸塩水和物	41	コアテック注・注SB	不明			初回10 µg/kgを5分間かけて緩徐に静注し、引き続き0.1 - 0.3 µg/kg/minで点滴静注。0.4 µg/kg/minまで増量可	1/3 - 1/2に減量					1/3に減量			
	ミルリノン	42	ミルリノン注射液・K注射液	○			初回50 µg/kgを10分かけて静注し、引き続き0.5 µg/kg/minで点滴静注。0.25 - 0.75 µg/kg/minの範囲で増減。点滴静注から開始しても可。48時間を超過して投与するときは慎重投与。	腎機能に応じて10 - 50%に減量					0.25 µg/kg/minから開始			
β遮断薬	アテロール	43	テノミン錠	○	○		1日1回50 mg、最大1日100 mg	1日1回25 - 50 mg		1日1回25 mg		1日1回12.5 mg	1回25 mgを3回HD後、PDでは25 mgを3回			
	ナドローール	44	ナディック錠	○			1日1回30 - 60 mg		常用量を24 - 36時間毎		常用量を24 - 48時間毎		常用量を48 - 72時間毎			
ループ利尿薬	フロゼミド	45	ランシックス注100mg	×	禁		20 - 40 mgを静注し、利尿反応のないことを確認した後、100 mgを静注。投与後2時間以内に40 mL/hr以上の尿量が得られない場合には漸増し、症状により適宜増減。最大1回量500 mg、最大1日量1,000 mg	腎機能正常者と同じだが1日375 mg以上の投与あるいは血清濃度50 µg/mL以上で感覚障害が起りやすくなる。注射薬では7.5 mg/kgを超えないようにする。					7.5 mg/kgを超えないようにするが、無尿の場合には禁忌			
炭酸脱水酵素抑制薬	アセトザラミド	46	ダイアモックス錠・末	×	禁		①経内服：1日250 - 1,000 mgを分割投与 ②てんかん：1日250 - 750 mgを分割投与 ③肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善、心性・肝性浮腫：1日1回250 - 500 mg ④月経前緊張症：1日1回125 - 375 mgを月経前5 - 10日間又は症状が出現した日から投与 ⑤メニエル病及びメニエル症候群：1日1回250 - 750 mg ⑥睡眠時無呼吸症候群：[錠のみ]1日250 - 500 mgを分割投与	1回125 又は1250 mgを1日2回				1日1回125 mg	1日1回125 mg	1回125 mgを3回、ただし無尿、急性腎不全の患者には禁忌		
	ダイアモックス注射用	47	ダイアモックス注射用	×	禁		①経内服：1日250 mg - 1 gを分割投与 ②てんかん：1日250 - 750 mgを分割投与 ③肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善：1日1回250 - 500 mg ④メニエル病及びメニエル症候群：1日1回250 - 750 mg いづれも静注又は筋注									
肺高血圧症治療薬	タダラフィル	48	アドシルカ錠	×	禁		1日1回40 mg		1日1回20 mg					禁忌(血中濃度が上昇すること、使用経験が限られていること及び透析によるCLの促進は期待されない)		

分類	薬品名	一般名	番号	商品名	透折性	禁忌	腎障害	常用量							HD(血液透析) PD(腹膜透析)		
								GFRまたはGCR(ml/min)								10>	末期腎不全
								>80	70	60	50	40	30	20			
								正常または軽度低下			軽度~中等度低下		中等度~高度低下	高度低下	1日100 mgを分1	1日100 mgを分1	
抗不整脈薬Ⅰa群	ジブピラミド	49	リスモダンカプセル		個人差あり	禁		1日300 mgを分3			1日150~200 mgを分1~2		1日100 mgを分1		1日100 mgを分1		
	ジブピラミド酸塩	50	リスモダン錠		禁		1日300 mgを分2			徐放性製剤のため用量調節できないので使用を推奨しない				重篤な腎機能障害患者は禁忌(腎排泄で徐放性製剤のため適さない)			
		51	リスモダンP静注				1日50~100 mg(1~2 mg/kg)を5分以上かけて緩徐に静注			適宜減量		1日100 mgまで1回量は常用量と同じ					
		52	シベノール錠		x	禁	1日300 mgを分3, 1日450 mgまで増量可			1回50 mgを1日1~2回		1日1回50 mg		1日1回25 mg		禁忌(低血糖などの重篤な副作用を起しやすい)	
		53	シベノール静注				1回1.4 mg/kgを2~5分かけて静注			適宜減量							
		54	アミサリン錠				1回250~500 mgを3~6時間毎			1回250~500 mgを12時間毎		1回250~500 mgを12~24時間毎					
	55	アミサリン注				静注: 200~1,000 mgを50~100 mg/minの速度で投与。最大注入総量1,000 mg 筋注: 1回500 mgを4~6時間毎			1回200~400 mgを12時間毎		1回200~400 mgを12~24時間毎						
抗不整脈薬Ⅰc群	ビルシカイノイド塩酸塩水和物	56	サンリズムカプセル		△20%		1日150 mgを分3, 1日225 mgまで増量可			1日1回50 mg		1日1回25 mg		1回25 mgを48時間毎		1回25 mgを48時間毎より開始	
		57	サンリズム注射液				①期外収縮: 1回0.75 mg/kg ②頻拍: 1回1.0 mg/kg いずれも10分間で徐々に静注			適宜減量							
抗不整脈薬Ⅲ群	ソタロール塩酸塩	58	ソタロール錠		○	禁	1日80 mgを分2で開始し, 1日320 mgまで漸増			1/3~2/3に減量		禁忌(腎臓から排泄されるため, 血中濃度が高くなることにより, 重篤な副作用が発現するおそれがある)					
ファイブレード系薬剤	フェノフィブラート	59	トライコール/ビディル錠		x	禁	○ 1日1回106.6~160 mgを食後, 最大1日160 mg			中等度以上の腎障害(目安として血清Cr値2.5 mg/dL以上)では禁忌		禁忌					
	ベザフィブラート	60	ベザトールSR錠		x	禁	○ 1日400 mgを分2, 朝夕食後			1日1回200 mg		血清Cr 2.0 mg/dL以上は禁忌		禁忌			
第2世代抗ヒスタミン薬	フェキソフェナジン塩酸塩/塩酸プロピドエフェドリン配合	61	デュレグ配合錠		x		1回2錠を1日2回, 朝夕の空腹時			ブソドエドリンの尿中未変化体排泄率のデータに幅があるため, 至適投与量が定めにくい(1回1錠を1日1~2回)							
	レボセチリジン	62	ザイザル錠・シロップ		x	禁	1日1回5 mg, 就寝前, 最大1日10 mg 1日1回2.5 mg			1回2.5 mgを2日に1回		1回2.5 mgを週2回(3~4日毎)		禁忌(腎機能正常者に比しAUCが1.8~5.7倍増加する)			
H <sub>2</sub> 遮断薬	シメチジン	63	タガメット錠・細粒		○	○	①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍: 1日800 mgを分2, 朝食後・就寝前, 1日量を分4(毎食後・就寝前)もしくは1回(就寝前)も可 ②吻合部潰瘍, ソリンジャー・エリソン症候群, 逆流性食道炎, 上部消化管出血: 1日800 mgを分2, 朝食後・就寝前, 1日量を分4(毎食後・就寝前)も可 ③急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期: 1日400 mgを分2, 朝食後・就寝前, 1日量を4回(就寝前)も可			1回200 mgを1日3回(8時間毎)		1回200 mgを1日2回(12時間毎)		1回200 mgを1日1回(24時間間隔), HD患者はHD日にはHD後に投与			
		64	タガメット注射液				①上部消化管出血, 侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制: 1回200 mgを1日4回, 6時間間隔で緩徐に静注又は点滴静注 ②麻酔前投薬: 1回200 mgを麻酔導入1時間前に筋注			1回200 mgを1日3回(8時間毎)		1回200 mgを1日2回(12時間毎)		1回200 mgを1日1回(24時間間隔), HD患者はHD日にはHD後に投与			
	ニザチジン	65	アンノン錠		○		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍: [75, 150 mg]1回150 mgを1日2回, 朝食後・就寝前, 1日1回300 mg, 就寝前も可 ②逆流性食道炎: [75, 150 mg]1回150 mgを1日2回, 朝食後・就寝前 ③急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期: [75 mg]1回75 mgを1日2回, 朝食後・就寝前			1日1回150 mg		1日1回75 mg		1日1回75 mg又は1回150 mgを週3回, HD患者はHD日にはHD後に投与			
	ファモチジン	66	ガスター錠・D錠・散		○	○	①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, 上部消化管出血, 逆流性食道炎, Zollinger-Ellison症候群: 1回20 mgを1日2回, 朝夕食後又は就寝前, 1日1回40 mg, 就寝前も可 ②急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期: 1回10 mgを1日2回, 朝夕食後又は就寝前, 1日1回20 mg, 就寝前も可			1日20 mgを分1~2		1回20 mgを2~3日に1回又は1日1回10 mg		1日1回10 mg, HD患者では1回20 mgを週3回HD後でも可			
		67	ガスター注射液				①上部消化管出血, Zollinger-Ellison症候群, 侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制: 1回20 mgを1日2回, 12時間毎に緩徐に静注, 点滴静注又は筋注 ②麻酔前投薬: 1回20 mgを麻酔導入1時間前に筋注			1日20 mgを分1~2		1回10 mgを2日に1回又は1日1回5 mg		1日1回5 mg, HD患者で1回10 mgを週3回HD後でも可			
	ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	ザンタック錠	68	ザンタック錠		x	○	①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, Zollinger-Ellison症候群, 逆流性食道炎, 上部消化管出血: 1回150 mgを1日2回, 朝食後・就寝前, 1日1回300 mg, 就寝前も可 ②急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期: 1回75 mgを1日2回, 朝食後・就寝前, 1日1回150 mg, 就寝前も可 ③麻酔前投薬: 1回150 mgを2回, 手術前日就寝前及び当日麻酔導入2時間前			1回75 mgを1日2回		1日1回75 mg		1日1回75 mg又は1回150 mgを週3回, HD患者はHD日にはHD後に投与		
69			ザンタック注射液				①上部消化管出血: 1回50 mgを1日3~4回, 静注又は筋注 ②侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制: 1回100 mgを1日2回, 点滴静注 ③麻酔前投薬: 1回50 mgを麻酔導入1時間前に静注又は筋注, 手術が長時間に及ぶ場合は6時間間隔で50 mgを追加			1回50 mgを1日2回		1日1回50 mg		1日1回50 mg又は1回100 mgを週3回, HD患者はHD日にはHD後に投与			
70		アルタクトカプセル・細粒		x		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, 逆流性食道炎: 1回75 mgを1日2回, 朝食後・就寝前又は夕食後, 1日1回150 mg, 就寝前も可 ②Zollinger-Ellison症候群: 1回75 mgを1日2回, 朝食後・就寝前又は夕食後 ③麻酔前投薬: 1回75 mgを2回, 手術前日就寝前及び当日麻酔導入2時間前 ④急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期: 1回75 mgを1日1回, 就寝前又は夕食後			1日1回75 mg		1日1回37.5 mg		1日1回37.5 mg又は1回75 mgを週3回, HD患者はHD日にはHD後に投与				
71	アルタクト静注				①上部消化管出血: 1回75 mgを1日2回, 緩徐に静注又は点滴静注 ②麻酔前投薬: 1回75 mgを麻酔導入1時間前に静注			1回37.5 mgを1日2回		1日1回25 mg		1日1回25 mg又は1回75 mgを週3回, HD患者はHD日にはHD後に投与					
消化管運動調整薬	モトプロラミド	72	プリンバラン錠・細粒・シロップ		x		1日10~30 mgを分2~3, 食前			1日5~15 mgを分1~2 (Up to Date)		※CLが健常者の30%に低下するよう報告がある (Eur J Clin Pharmacol 19: 437-441, 1981)					
		73	プリンバラン注射液		x		1回10 mgを1日1~2回, 筋注又は静注			50%に減量 (Up to Date) ※CLが健常者の30%に低下するよう報告がある (Eur J Clin Pharmacol 19: 437-441, 1981)							
経口腸管洗浄薬	リン酸二水素ナトリウム一水和物/無水リン酸二水素ナトリウム配合	74	ビジカール配合錠		不明	禁	○ 大腸内視鏡検査開始の4~6時間前から本剤を1回あたり5錠ずつ, 約200 mLの水とともに15分毎に計10回(150錠)投与			禁忌(透析患者を含む重篤な腎機能障害のある患者, 急性少尿症のある患者)では吸収されたリンの排泄が遅延し, 血中リン濃度の上昇が持続するおそれがあり, 腎機能障害, 急性リン酸血症(腎石灰沈着症)を悪化させるおそれがある							
スルホニル尿素(SU)薬	アセトヘキサミド	75	ジメチン錠		x	禁	1日250 mg, 投与方法は分1の場合は朝食前又は後, 分2の場合は朝夕食前又は後, 最大1日1,000 mg			慎重投与							
	グリベンクラミド	76	オイグルコン錠/ダオニール錠		x	禁	1日2.5 mg, 投与方法は分1の場合は朝食前又は後, 分2の場合は朝夕食前又は後, 最大1日10 mg			禁忌(SU剤は腎機能が低下すると一定の臨床効果が得られないうえ, 低血糖などの副作用を起しやすいため, 重篤な腎機能障害患者はインスリン治療に切り替える)							
	グリメピリド	77	アマール錠・OD錠		x	禁	1日0.5~1 mgを分1~2, 朝又は朝夕食又は食後より開始し, 維持量1日1~4 mg, 最大1日6 mg										
	クロルプロピド	78	アペマド錠		x	禁	1日1回100~125 mgを朝食前又は食後, 最大1日500 mg										
速効型インスリン分泌促進薬	ナラグリド	79	スターシス錠/ファスティック錠		x	禁	1回90 mgを1日3回, 毎食直前, 最大1回120 mg			活性代謝物が蓄積しやすいため慎重投与		禁忌(透析を必要とするような重篤な腎機能障害のある患者は, 活性代謝物が蓄積することによって低血糖が起しやすい)					
ピグアナイド系	プロホルミン塩酸塩	80	ジネット錠・S腸溶錠		○	禁	○ 1日100 mgを分2~3, 食後, 最大1日150 mg			禁忌(低血糖のみでなく乳酸アシドーシスの危険がある)							
		81	グロラシオン錠				1日500 mgを分2~3, 食後, 最大1日750 mg, ただし軽度腎障害も禁忌			禁忌(腎機能障害(軽度障害も含む)は, 腎臓における本剤の排泄が減少するため)							
	メトホルミン塩酸塩	82	メトグルコ錠		○	禁	○ 1日500 mgを分2~3, 食直前又は食後より開始し, 維持量は1日750~1,500 mg, 最大1日2,250 mg			禁忌(透析患者を含む)は, 腎臓における本剤の排泄が減少するため禁忌となっており, メトホルミンの適正使用に関するRecommendationによると, 「eGFR 30未満の場合には禁忌, eGFRが30~45の場合にはリスクとベネフィットを勘案して慎重投与」		禁忌(透析患者(腹膜透析を含む)では高い血中濃度が持続するおそれがある)					

分類	薬品名	一般名	番号	商品名	透折性	禁忌	腎障害	常用量							HD(血液透析) PD(膜透析)		
								GFRまたはCrCl(mL/min)								20	10>
								>80	70	60	50	40	30	20			
正常または軽度低下								軽度~中等度低下		中等度~高度低下		高度低下		末期腎不全			
DPP-4阻害薬	アグリプレチン	83	ネシーナ錠	x				1日1回25mg		1日1回25mg		1日1回6.25mg					
	オマリグリプレチン	84	マリゼプ錠	x				25mgを1週間に1回	eGFR60-80 mL/min/1.73m <sup>2</sup> の軽度腎機能低下患者に比しAUCが1.42倍に上昇するため慎重投与。ただし軽度腎機能低下例では腎機能正常者の0.94倍になることも考慮し、慎重に判断された。	eGFR60-80 mL/min/1.73m <sup>2</sup> の軽度腎機能低下患者に比しAUCが1.66倍に上昇し、透析患者では1.1倍に上昇するため慎重投与。ただし、軽度腎機能低下例では腎機能正常者の0.94倍になることも考慮し、慎重に判断された。							
	シタグリプレチン/酸塩水和物	85	ジャスピア錠/グラティア錠	x				1日1回50-100mg		1日1回25mg、最大1日1回50mg		1日1回2.5mg、最大1日1回25mg					
	トレグリプレチン/酸塩水和物	86	ザファテック錠	x				100mgを1週間に1回		50mgを1週間に1回		禁忌(主に腎臓で排泄されるため、排泄の遅延により本剤の血中濃度が上昇するおそれがある)					
GLP-1アナログ製剤	バイエクタ皮下注ペン	87	バイエクタ皮下注ペン					1日5µgを1日2回朝夕食前に皮下注。投与開始後から1ヶ月以上の経過観察後、1日10µgを1日2回に増量可		1日5-10µgを1日1回CLの低下、t <sub>1/2</sub> の延長を認めるため		禁忌(主に腎臓で排泄されるため、排泄の遅延により本剤の血中濃度が上昇するおそれがある)					
	エキセナチド	88	ビデュリオン皮下注ペン	x				1日2mgを週に1回、皮下注		使用経験も少なく不明だが、CLの低下、t <sub>1/2</sub> の延長を認めるため減量すべきであるが、デバイスが減量に不適なため、使用しないことが望ましい		禁忌(透析患者を含む重度腎機能障害のある患者では本剤の消化器系副作用による忍容性が認められていない)					
チアゾリジン系薬・DPP-4阻害薬配合剤	ビオグリアゾン塩酸塩/メトホルミン塩酸塩配合	89	メタド配合錠LD・HD	x				1日1回1錠、朝食後 女性の場合は、ビオグリアゾンとして1日1回15mgから投与を開始することが望ましい		禁忌(腎機能障害(軽度障害も含む)では、腎臓におけるメトホルミンの排泄が低下する)							
チアゾリジン系薬・DPP-4阻害薬配合剤	ビオグリアゾン塩酸塩/アグリプレチン/安息香酸塩配合	90	リオベル配合錠LD・HD	x				1日1回1錠を朝食前又は朝食後 女性・高齢者の場合は、これまでのビオグリアゾンの投与量を考慮のうえ、ビオグリアゾンとして1日1回15mgからの投与開始を検討する		禁忌(重篤な腎機能障害)							
DPP-4阻害薬・セクブタメド系薬配合剤	アナグリプレチン/メトホルミン塩酸塩配合	91	メトア配合錠LD・HD	x				1日1錠を1日2回朝夕		禁忌							
	アグリプレチン/安息香酸塩/メトホルミン塩酸塩配合	92	イニシク配合錠	x				1日1錠を食直前又は食後		禁忌							
	ビルダグリプレチン/メトホルミン塩酸塩配合	93	エクメタ配合錠LD・HD	x				1日1錠を1日2回朝夕		禁忌(中等度以上の腎機能障害では腎臓におけるメトホルミンの排泄が減少する)		禁忌(透析患者(腹膜透析を含む)ではメトホルミンの高い血中濃度が持続するおそれがある)					
ビスホスホネート製剤	ボンビバ錠	94	ボンビバ錠					1カ月に1回100mg、起床時		減量の必要なし(Up to Date)		投与を推奨しない(Up to Date)					
	イバドロン酸ナトリウム水和物	95	ボンビバ錠1mgシリンジ		△36%			1カ月に1回1mg、静注	慎重投与(AUCが健常者の1.55倍上昇する)	慎重投与(CCr 30 mL/min未満ではAUCは約3倍になる)		慎重投与(高度の腎障害のある患者には使用経験がなく安全性が確立していない)					
	エチドロン酸ナトリウム	96	ガイドロネ錠	x				①骨粗鬆症: 1日1回200mgを2週間、再投与まで10-12週休業、最大1日400mg ②骨髄損傷後・股関節形成後の異所性骨化の抑制: 1日1回800-1,000mg、最大投与期間3ヶ月 ③骨ペーজেット病: 1日1回200mg、最大1日1,000mg いずれも食前に投与し、服薬前後2時間は食物の摂取を避ける	1日1回100-750mg			禁忌(排泄が阻害されるおそれがある)					
	ゾメタ点滴静注	97	ゾメタ点滴静注	x				①悪性腫瘍による高カルシウム血症: 1回4mgを15分以上かけて点滴静注。再投与の場合は少なくとも1週間の投与間隔を空ける ②多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨痛: 1回4mgを15分以上かけて3-4週間間隔で点滴静注	①減量の必要なし ②1回3.5mg いずれも、急性尿管管破綻を避けるため、15分以上かけて点滴静注	①減量の必要なし ②1回3.3mg いずれも、急性尿管管破綻を避けるため、15分以上かけて点滴静注	①減量の必要なし ②1回3.0mg いずれも、急性尿管管破綻を避けるため、15分以上かけて点滴静注	①減量の必要なし ②1回3.0mg未満 いずれも、急性尿管管破綻を避けるため、15分以上かけて点滴静注	十分な使用経験がないので腎機能などをモニターし、1回1回3mg未満を慎重投与。尿量のある症例には急性尿管管破綻を避けるため、15分以上かけて点滴静注投与すること				
ゾメタ点滴静注	98	ゾメタ点滴静注	x				①骨粗鬆症: 1日1回15mgを15分以上かけて点滴静注	慎重投与	禁忌(重度の腎障害(CCr 35 mL/min未満)のある患者では急性腎不全を起こすことがある)								
ゾメタ点滴静注	99	ゾメタ点滴静注	x				①骨粗鬆症: [2.5mg]1日1回2.5mg、[17.5mg]1週間に1回17.5mg、[75mg]1ヶ月に1回75mg 骨ペーজেット病: [17.5mg]1日1回17.5mgを8週間隔日	慎重投与(排泄が遅延するおそれがある)		禁忌(CCr 30 mL/min未満では排泄が遅延するおそれがある)							
被骨細胞分化因子(RANKL)完全ヒト型モノクローナル抗体	ランマーク皮下注	100	ランマーク皮下注	x				①多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨痛: 1回120mgを4週間に1回、皮下注 ②骨巨細胞腫: 1回120mgを第1、8、15、29日、その後4週間に1回、皮下注	腎機能正常者と同じ			慎重投与(重度の腎機能障害患者では低カルシウム血症を起こすおそれが高い)					
	ブラリア皮下注シリンジ	101	ブラリア皮下注シリンジ	x				①骨粗鬆症: 6ヶ月に1回60mg、皮下注 ②関節リウマチに伴う骨びらんの進行抑制: 6ヶ月に1回60mg、皮下注。症状により3ヶ月に1回の投与も可									
ヘパリン製剤	レキサン皮下注キット	102	レキサン皮下注キット	x				1回2,000IUを、原則として12時間毎に1日2回、連日皮下注		抗Xa因子活性のAUCは21%上昇するため、減量が必要		禁忌(重度の腎障害では血中濃度が上昇し、出血の危険性が増大するおそれがある)					
	アクトストラ皮下注5mg・7.5mg	103	アクトストラ皮下注5mg・7.5mg	x				急性肺血栓塞栓症及び急性深部静脈血栓症の治療: 以下の用量を1日1回皮下注。体重50kg未満5mg、体重50-100kg7.5mg、体重100kg超10mg	体重100kg超では、1日7.5mgへの減量を考慮		禁忌(腎排泄性であり血中濃度が上昇し出血のリスクが増す)						
	アクトストラ皮下注1.5mg・2.5mg	104	アクトストラ皮下注1.5mg・2.5mg	x				静脈血栓塞栓症の発症抑制: 1日1回2.5mg、皮下注	1日1回2.5mgで出血の危険が高い場合、1日1回1.5mgを皮下注	1日1回1.5mg	禁忌(腎排泄性であり血中濃度が上昇し出血のリスクが増す)						
抗トロンボリン薬	ダビガトランエキシン/ラネキサメソール塩酸塩	105	ブラザキサカプセル					1日150mgを1日2回、ただし、経口P-糖蛋白阻害薬(ペラバミル、クワリロマイシン、シタロキサミン、イトラコナゾール、シクロスポリン、キニジン、リトナビル、ネリスイゼル、プロパフェノン)併用患者、70歳以上の患者、消化管出血の既往のある患者では1日110mgの1日2回投与を考慮	1日110mgを1日2回、ただし経口P-糖蛋白阻害薬併用患者には投与を避ける。ただし、Gusti-Hayton法による計算では1日220mgの投与量自体が過量投与である可能性あり		禁忌(腎排泄性薬物であり出血の危険性が増大する)						
	アピキサiban	106	エリキウス錠	x				①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制: 1回5mgを1日2回 ②静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制: 1回10mgを1日2回、7日間投与後、1回5mgを1日2回	腎機能正常者に対しCrCl 40 mL/minではAUCが29%増加するため、やや減量を考慮		①腎機能正常者に対しAUCが44%増加するため、1回2.5mgを1日2回 ②禁忌(使用経験がない)						
Xa阻害薬	エドキサiban/ナトリウム酸塩水和物	107	リクシアナ錠・OD錠	x				①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制: 1回60mgを1日1回、60kg以下30mg、60kg超60mg ②下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症発症抑制: 体重に関係なく1回30mgを1日1回	①1日1回30mg ②1日1回15mg		①1日1回30mg ②禁忌	①禁忌(使用経験がなく、ベネフィットを上回る出血のリスクが生じるおそれがある)					
	ダナロイドナトリウム	108	オルガン静注	x				1回1,250抗Xa因子活性単位を12時間毎に静注(1日量2,500抗Xa因子活性単位)	慎重投与(血清Cr 2mg/dL以上の場合は減量もしくは投与間隔をあげる)			禁忌(HDが必要な患者では排泄遅延により出血を起すおそれがある。また、投与中にHDが必要な状態に至った場合には速やかに投与を中止する)					
	リバーロキサiban	109	イザレト錠・細粒分包	x				①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制: 1日1回15mg ②静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制: 発症後の初期3週間は1回15mgを1日2回、その後1日1回15mg	①1日1回10mg		①適用について慎重に判断して1日1回10mg ②禁忌(使用経験がない)	②禁忌(使用経験がない)					
抗血栓性末梢循環改善剤	バロキソリン	110	デフィブラーゼ点滴静注液	x				10・ストロキソリン単位(BU)を輸液で用時希釈し、隔日に1時間以上かけて点滴静注(6週間以内)。初回20BU投与することもある。	薬物動態データがほとんど不明		禁忌						
脂溶性ビタミン剤	ビタミンA	111	チョコラA未・錠	x				補給目的: [未] 1日2,000-4,000ビタミンA単位を分3 治療目的: [未] 1日3,000-100,000ビタミンA単位を分3、[錠] 1日10,000-100,000ビタミンA単位を分3				末期腎不全患者は血中ビタミンA濃度が高いため投与しない					
	レチノールパルミチン酸エステル	112	チョコラA錠	x				補給目的: 1日2,000-4,000ビタミンA単位 治療目的: 1日3,000-100,000ビタミンA単位									
	レチノールパルミチン酸エステル	113	チョコラ筋注	x				1日3,000-100,000ビタミンA単位、筋注									
	エトレチナート	114	チゾナカプセル	x				寛解導入量として、1日40-50mgを分2、3-2週間、1日最大量75mg、寛解維持量として、1日10-30mgを分1-3		禁忌(腎障害のある患者では本剤の作用が増強するおそれがある)							
血漿増量・体外循環濾過液	ヒドロキシエチルデンプン130000	115	ボルベール輸液	x				①持続的に静注。最大1日50mL/kg	1日500mL以下(renal Pharmacotherapy, 2013)			禁忌(透析患者では排泄が遅延する)					
	ヒドロキシエチルデンプン70000・生理食塩液	116	サルベス輸液/ヘスバンダー輸液	x				①100-1,000mL、静注。体外循環における血液ろ過液としては10-20mL/kg	1日500mL以下(renal Pharmacotherapy, 2013)			禁忌(尿量を伴う腎障害または脱水状態のある患者では腎不全を起こすおそれがある)					
補正用電解質液	塩化カルウム	117	KCL補正液					カルウムイオン濃度40mEq/L以下に希釈し、投与速度はカルウムイオンとして20mEq/hrを超えないこと。電解質補液の補正には、体内の水分、電解質の不足に応じて電解質補液に添加して点滴静注するが、腹膜透析液に添加して腹腔内投与も可	一般的に高カルウム血症になりやすいため、慎重投与。血中カルウム濃度をみながら投与する。高カルウム血症を起すことがあるので、投与速度はカルウムイオンとして20mEq/hrを超えないこと。電解質補液の補正には、体内の水分、電解質の不足に応じて電解質補液に添加して点滴静注するが、腹膜透析液に添加して腹腔内投与も可								

分類	薬品名		通析性	禁忌	腎障害	常用量				GFRまたはCcr(ml/min)				HD(血液透析) PD(腹膜透析)		
	一般名	番号				商品名	>80	70	60	50	40	30	20		10	
							正常または軽度低下				軽度～中等度低下		中等度～高度低下		高度低下	
カリウム補給薬	塩化カリウム	118	スローケー錠	○	禁	1回2錠を1日2回、食後	慎重投与。低カリウム血症があれば投与。消化管通過障害のある患者では塩化カリウムの局所的な粘膜刺激作用により潰瘍、痔瘻、穿孔をきたすことがあるため禁忌				禁忌。無尿、高度の腎機能障害には禁忌。ただしCAPDなどで低カリウム血症があれば投与可能。消化管通過障害のある患者では塩化カリウムの局所的な粘膜刺激作用により潰瘍、痔瘻、穿孔をきたすことがあるため禁忌					
第四世代セフェム系	セフェピム塩酸塩(CFPM)	119	注射用マキシムーム	○		①一般感染症:1日1～2g分2、静注又は点滴静注。難治性又は重症感染症には1日4gまで増量可。 ②発熱性好中球減少症:1日4gを分2、静注又は点滴静注	1日1gを分2				1日0.5gを分1		1日0.5gを分1、HD患者はHD日にはHD後に投与			
カルバペネム系	イミペネム水和物/シラスタチンナトリウム配合剤(IPMCS)	120	チエナム点滴静注用・筋注用	○	○	【静注用】1日0.5～1.0gを分2～3、30分以上かけて点滴静注。重症例等には1日2gまで増量可【筋注用】1日0.5～1.0gを分2、筋注	1日0.25～0.5gを分2				1日0.25gを分1		イミペネムの腎外CLが58%低下するという報告あり【Expert Opin Drug Metab Toxicol 4: 1065-1074, 2008】	イミペネムの腎外CLが58%低下するという報告あり【Expert Opin Drug Metab Toxicol 4: 1065-1074, 2008】		
	パニペネム/バタミプロン(PAPM/BP)	121	カルベネム点滴用	○	○	1日1gを分2、30分以上かけて点滴静注。重症例等には1日2gを分2まで増量可。1回1gの場合は60分以上かけて持続点滴	1日1gを分2				1日0.5gを分1		1日0.5gを分1、HD患者はHD後に投与			
アミノグリコシド系	アマカシン硫酸塩(AMK)	122	アマカシン硫酸塩注	○	○	1回7.5～20mg/kgを24hr毎、ただし1回20mg/kg24hr毎の高用量は15日以内にとどめる(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回7.5～12mg/kgを24時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回4～12mg/kgを24時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回15mg/kgを48時間毎または4mg/kgを24時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回7.5～12mg/kgを48時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	4～10mg/kgを48時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	投与量は指定されていない	HD:5～7.5mg/kgを投与量維持量と同じ量を毎日投与(抗菌薬TDMガイドライン2016)			
	イセパマイシン硫酸塩(ISP)	123	イセパマイシン硫酸塩注射液/シラスタチン注射液	○	○	1回8～15mg/kgを24hr毎(サンフォード感染症治療ガイド)	1回8mg/kgを24～48時間毎、エンビリック治療には他剤を選択すること。本剤を使用する場合にはTDMを実施し、腎機能をモニターすること				1回4～8mg/kgを48～72時間毎、エンビリック治療には他剤を選択すること。本剤を使用する場合にはTDMを実施し、腎機能をモニターすること	1回8mg/kgを72～96時間毎、エンビリック治療には他剤を選択すること。本剤を使用する場合にはTDMを実施し、腎機能をモニターすること	1回8mg/kgを72～96時間毎、HD患者はHD日には他剤を選択すること。本剤を使用する場合にはTDMを実施し、腎機能をモニターすること			
	ゲンタマイシン硫酸塩(GM)	124	ゲンタシン注	○	○	1回4～7mg/kgを24hr毎、ただし1回7mg/kgを24時間毎の高用量は15日以内にとどめる(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回3.5～4mg/kgを24時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回2.5～4mg/kgを24時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回5mg/kgを48時間毎または2.5mg/kgを24時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回4mg/kgを48時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回3mg/kgを48時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	投与量は指定されていない	HD:10～2.5mg/kgを投与量維持量と同じ量を毎日投与(抗菌薬TDMガイドライン2016)。CAPD:無尿で10.6mg/kg、尿量のある患者で10.75mg/kgを1日1回静注。または無尿で18mg/L、尿量のある患者で10mg/Lを1日1回静注(抗菌薬TDMガイドライン2016)。本剤を使用する場合にはTDMを実施し、尿量をモニターすること			
	トブラマイシン(TOB)	125	トブラシン注	○	○	1回4～7mg/kgを24時間毎、ただし1回7mg/kgを24時間毎の高用量は15日以内にとどめる(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回3.5～4mg/kgを24時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回2.5～4mg/kgを24時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回5mg/kgを48時間毎または2.5mg/kgを24時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回4mg/kgを48時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回3mg/kgを48時間毎(抗菌薬TDMガイドライン2016)	投与量は指定されていない	HD:10mg/Lを1日1回静注(抗菌薬TDMガイドライン2016)。本剤を使用する場合にはTDMを実施し、尿量をモニターすること			
アルベカシン硫酸塩(ABK)	126	ハベカシン注射液	○	○	目標血中濃度を達成するためには1日1回5.5～6.0mg/kgが必要である。しかしその安全性に関する成績は限られている。目標ピーク値は15～20µg/mL。腎機能障害の観点からトブラ値は1µg/mL未満とする(抗菌薬TDMガイドライン2016)	他の抗菌薬が使用できない場合は、GM/TOBで推奨されている投与設計を参考とする(抗菌薬TDMガイドライン2016)										
ダプトマイシン(DAP)	127	キューピン静注用	x		①敗血症、感染性心内膜炎:1日1回6mg/kgを24時間毎、30分かけて点滴静注又は緩徐に静注 ②二次性皮膚感染症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染:1日1回4mg/kgを24時間毎、30分かけて点滴静注又は緩徐に静注	腎機能正常者と同じ				AUCが2倍に上昇するため、1回4～6mg/kgを48時間毎、点滴静注	AUCが3倍に上昇するため、1回4～6mg/kgを48時間毎、点滴静注(透析性が高くないと思われるが添付文書では透析時間のHD日にはHD後に投与)					
抗MRSA薬	テイコプラノン(TEIC)	128	注射用タゴシッド	x	○	1回6.7mg/kgを2日2回、3日目で6.7mg/kgを1回を投与する。その後16.7mg/kgを24時間毎とし、TDMの結果で再評価する。目標トブラ値は15～30µg/mL。(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回6.7mg/kgを2日2回、3日目で6.7mg/kgを1回を投与する。その後は3mg/kgを24時間毎とし、TDMの結果で再評価する(抗菌薬TDMガイドライン2016)。	1回6.7mg/kgを1日2回で1日間、2日目で6.7mg/kgを1日1回、3日目で6.7mg/kgを1日1回を投与する。その後は16.7mg/kgを1日1回を投与する。その後16.7mg/kgを24時間毎とし、TDMの結果で再評価する(抗菌薬TDMガイドライン2016)。		1回6.7mg/kgを1日2回で1日間、2日目で6.7mg/kgを1日1回、3日目で6.7mg/kgを1日1回を投与する。その後16.7mg/kgを24時間毎とし、TDMの結果で再評価する(抗菌薬TDMガイドライン2016)。	1回6.7mg/kgを1日2回で1日間、2日目で6.7mg/kgを1日1回、3日目で6.7mg/kgを1日1回を投与する。その後16.7mg/kgを24時間毎とし、TDMの結果で再評価する(抗菌薬TDMガイドライン2016)。	HD:6.7mg/kgを1日2回で1日間、3日目で6.7mg/kgを1日1回を投与する。その後はHD後は3.3mg/kgを投与し、TDMの結果で再評価する(抗菌薬TDMガイドライン2016) CAPD:腹膜炎:1回40mgのバッグ内投与を1日2回を1週間投与、さらに1回40mgのバッグ内投与を1日1回を1週間投与する(Perit Dial Int 10: 107-108, 1990)				
	バンコマイシン塩酸塩(VCM)	129	塩酸バンコマイシン点滴静注用	△	△	1回15～30mg/kg(実測体重)を腎機能に応じて初回負荷投与(eGFR≥120mL/min/17.3m <sup>2</sup> で30mg/kg、90～120で25mg/kg、80～90で15mg/kg)し、その後は12.5～20mg/kg(≥120mL/min/1.73m <sup>2</sup> で20mg/kg、90～120で15mg/kg、80～90で12.5mg/kg)を12時間毎に投与する。ただし1日3gを超える投与は慎重に行い1日4g以上とする。またeGFR60～80mL/min/1.73m <sup>2</sup> 以上は負荷投与せず20mg/kgを1日1回投与を推奨する(抗菌薬TDMガイドライン2016)。	抗菌薬TDMガイドライン2016では「負荷投与せず15mg/kgを1日1回投与を推奨する」となっているが、十分な理由が記載されていない。	抗菌薬TDMガイドライン2016では「負荷投与せず12.5mg/kgを1日1回投与を推奨する」となっているが、十分な理由が記載されていない。		抗菌薬TDMガイドライン2016では「適応しない」となっているが十分な理由が記載されていない。	抗菌薬TDMガイドライン2016では「適応しない」となっているが十分な理由が記載されていない。	HD:初回10～25mg/kgを負荷投与し、毎日HD後17.5～10mg/kg投与。通常投与開始後2回目の透析時にTDMを実施する(抗菌薬TDMガイドライン2016) CAPD:15～30mg/kgをAPDでは1日毎に、APDでは1.5日毎に腹注し、TDMを実施。トブラ値15µg/mL以上にする。ただし尿量が100mL以上ある患者では25%増量して投与				
サルファ剤	バクタラミン注	130	バクタラミン注	○		1日T換算15～20mg/kgを分3、1～2時間かけて点滴静注	腎機能正常者と同じ				通常の1/2量		一般感染症への使用は推奨されない。 ニューモシチス肺炎の治療に使用する場合に、一例として1日6A(T換算480mg)を分1、HD患者はHD日にはHD後に投与 なお、本投与方法に関する情報は不足していることから、今後の検討が望まれる。			
	スルファメトキサゾール/トリアゾラム(ST)合剤	131	バクタ配合錠・配合顆粒/バクタラミン配合錠・配合顆粒	○		①一般感染症:1日【錠】4錠、【顆粒】4g(T換算320mg)を分2 ②ニューモシチス肺炎の治療及び発症抑制:治療の場合には1日【錠】9～12錠、【顆粒】9～12g(T換算720～960mg)を分3～4、発症抑制の場合には1日【錠】1～2錠、【顆粒】1～2g(T換算80～160mg)を連日又は連3日	腎機能正常者と同じ				通常の1/2量		一般感染症への使用は推奨されない。 ニューモシチス肺炎の治療に使用する場合に、一例として治療には1日【錠】6錠、【顆粒】6g(T換算480mg)を分1、発症抑制の場合には1日【錠】1錠、【顆粒】(T換算80mg)を連日、HD患者はHD日にはHD後に投与 なお、本投与方法に関する情報は不足していることから、今後の検討が望まれる。			
キノロン系	ピバテラ酸水和物(PPA)	132	ドルコール錠	x		①膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症):1日500～2,000mgを分3～4 ②感染性肺炎、中耳炎、副鼻腔炎:1日1,500～2,000mgを分3～4	1日250～1,500mg				1日250～750mg		尿中の未変化体の排泄量が55.7%と高いため、腎外CLに変化がなければ約1/2に減量するのが必要と思われる			
ニューキノロン系	オフロキサシン(OFLX)	133	タビド錠	△	○	1日300～600mgを分2～3、ハゼン病の場合は1日400～600mgを分2、3、腸チフスの場合は1回200mgを1日4回、14日間投与	1回200mgを1日1回				1回100mgを1日1回		HD患者はHD日にはHD後に投与			
	シフトロキサシン水和物(STFX)	134	グレースピット錠・細粒	x	○	1回50mgを1日2回、又は1回100mgを1日1回。効果不十分の場合は1回100mgを1日2回	1回50mgを1日1回				1回50mgを2日に1回		1回50mg又は100mgを週3回HD後に投与			
	バスロキサシンメシル酸塩(PZFX)	135	パシル点滴静注/バスクロ点滴静注	○	○	1日600～1,000mgを分2、30分～1時間かけて点滴静注。敗血症、肺炎球菌による肺炎、重症・難治性の呼吸器感染症(肺炎・慢性呼吸器病変の二次感染に限る)の場合1日2,000mgを分2、1時間かけて点滴静注	1回500mgを1日2回				1回500mgを1日1回		1回300～500mgを48hr毎、HD患者はHD日にはHD後に投与			
	フルロキサシン(PUFX)	136	スオード錠	x	○	1回200mgを1日2回、1回最大量は300mg。肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染には、1回300mgを1日2回	1回200mgを24時間毎				1回200mgを48時間毎					
	レボフロキサシン水和物(LVFX)	137	クラビット点滴静注	△	○	1回500mgを1日1回、約60分かけて点滴静注	初日500mgを1回、以後1回250mgを1日1回				初日500mgを1回、3日目を以降1回250mgを2日に1回					
		138	クラビット錠・細粒	○	○	1回500mgを1日1回	初日500mgを1回、以後1回250mgを1日1回				初日500mgを1回、3日目を以降1回250mgを2日に1回					
		139	レボフロキサシン(LFLX)	x	○	1回100～200mgを1日2～3回	1回100～200mgを12～24時間毎 AUCが2倍に上昇しA <sub>0-12</sub> が1.5倍に延長する				1回100～200mgを24時間毎		AUCが3.5倍に上昇しA <sub>0-12</sub> が2.4倍に延長し、腎外CLが63%低下する(Clin Pharmacol Ther 83: 898-903, 2008)			
ポリペプチド系	コリスチンメタンサルホン酸ナトリウム	140	オルドレブ点滴静注用	x		1回1.25～2.5mg/kgを1日2回、30分以上かけて点滴静注	1回1.25～1.9mg/kgを1日2回		1回1.25mg/kgを1日2回、又は1回2.5mg/kgを1日1回		1回1.5mg/kgを36時間毎		投与量の設定がされていない HD:1.5mg/kgを1日1回、HD患者はHD後に投与(日化学療法誌 63: 294-329, 2015)。ただしVdが大きい。そのため透析での除去率は高くないと予測される			

分類	薬品名		流通性	禁忌	腎障害	常用量					GFRまたはGCR(ml/min)					HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号				商品名	>80	70	60	50	40	30	20	10	>	
							正常または軽度低下					軽度～中等度低下		中等度～高度低下		
抗結核薬	エタンブール塩酸塩 (EB)	141	エサンブール錠/エタンブール錠	○		①肺結核及びその他の結核: 1日0.75-1gを分1-2 ②MAC症を含む非結核性抗酸菌症: 1日0.5-0.75gを分1 1日15mg/kgを分1, 最大1日量750mg, 初期2か月は1日20mg/kgを分1, 最大1日量1000mg(結核診療ガイドライン・改訂第3版)	減量して連日投与(結核診療ガイドライン・改訂第3版)					1回15-20mg/kgを48時間毎	1回15-20mg/kgを48hr毎, HD患者ではHD日にはHD後に投与			
	カナマイシン硫酸塩 (KM)	142	硫酸カナマイシン注射液	○	○	①肺結核及びその他の結核症: 1日2gを分2, 筋注, 週2日, 又は1日1gずつ週3日, 高齢者には1回0.5-0.75g ②その他: 1日1-2gを分1-2, 筋注 1日15mg/kgを分1, 初期週2か月間連続投与可, 連日投与時は最大1日量750mg, 週3回投与時は最大1日量1,000mg(結核診療ガイドライン・改訂第3版) 1回15mg/kgを24hr毎(サンフォード感染症治療ガイド)	使用を勧めない(結核診療ガイドライン・改訂第3版)						透析後に1回1g(結核診療ガイドライン・改訂第3版), 1回3mg/kgを72時間毎, HD患者ではHD日にはHD後に投与(サンフォード感染症治療ガイド)			
	サイクロセリン(CS)	143	サイクロセリンカプセル	×		1回250mgを1日2回 1日10mg/kg, 最大1日量500mg(結核診療ガイドライン・改訂第3版)	1回250mgを12-24時間毎					1回250mgを24時間毎				
	ストレプトマイシン硫酸塩 (SM)	144	硫酸ストレプトマイシン注射用塩	○		①肺結核及びその他の結核症: 1日1g, 筋注, 週2-3日, 高齢者には1回0.5-0.75g ②MAC症を含む非結核性抗酸菌症: 1日0.75-1g, 筋注, 週2-3日 ③その他: 1日1-2gを分1-2, 筋注 1日15mg/kgを分1, 初期週2か月間連続投与可, 連日投与時は最大1日量750mg, 週3回投与時は最大1日量1,000mg(結核診療ガイドライン・改訂第3版) 1回12-15mg/kgを24時間毎(サンフォード感染症治療ガイド)	使用を勧めない(結核診療ガイドライン・改訂第3版)						透析後に1g(結核診療ガイドライン・改訂第3版), 1回3mg/kgを72hr毎, HD患者ではHD日にはHD後に投与(サンフォード感染症治療ガイド)			
	ピラジナミド(PZA)	145	ピラミド原末	○		1日1.5-2.0gを分1-3 1日25mg/kgを分1, 最大1日量1,500mg(添付文書の用量では肝障害が起りやすい)(結核診療ガイドライン・改訂第3版)	減量して連日投与(結核診療ガイドライン・改訂第3版)					1回25-30mg/kgを週3回	1回25-30mg/kgを週3回, HD患者では毎HD後に投与			
ポリエンマクロライド系抗真菌薬	アムホテリシンB (AMPH)	146	ファンゼソン注	×	○	添付文書参照	腎毒性があるため, 他剤を選択する						無尿の患者には腎機能正常者と同一			
フルオロピリミジン系抗真菌薬	フルシトシン (5-FC)	147	アンコチル錠	○		①真菌血症, 真菌性髄膜炎, 真菌性呼吸器感染症, 顕性真菌症: 1日100-200mg/kgを分4 ②原腸真菌症, 前培養真菌症: 1日50-100mg/kgを分4	①1回25-50mg/kgを1日4回	①1回25-50mg/kgを1日2回		①1回25-50mg/kgを1日1回	①1回50mg/kgを24時間以上の間隔で	①1回25-50mg/kgを24時間以上の間隔で4HD日はHD後に				
アゾール系抗真菌薬	フルコナゾール (FLCZ)	148	ジフルカンカプセル・ドライシロップ	○	○	①カンジダ症: 1日1回50-100mg ②クリプトコッカス症: 1日1回50-200mg, 1日400mgまで増量可 ③造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防: 1日1回400mg ④カンジダ菌に起因する髄炎・外陰炎: [錠のみ]1回150mg	1回50-200mgを24時間毎					1回50-200mgを週3回, HD患者では毎HD後				
		149	ジフルカン静注液	○	○	①カンジダ症: 1日1回50-100mg ②クリプトコッカス症: 1日1回50-200mg, 1日400mgまで増量可 ③造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防: 1日1回400mg いずれも静注	1回50-200mgを24時間毎					1回50-200mgを週3回, HD患者では毎HD後				
		150	ホスフルコナゾール (F-FLCZ)	○		①カンジダ症: 1日1回50-100mgを維持量として静注 ②クリプトコッカス症: 1日1回50-200mgを維持量として静注, 400mgまで増量可 いずれも初日, 2日目は維持量の倍量を投与	通常用量の1/2に減量						HD・HD後には通常用量を投与する, CAPD, 通常用量の1/2に減量			
ヘルペスウイルス感染症治療薬	アシクロビル (ACV)	151	ゾブラックス錠・顆粒	○		①帯状疱疹: 1回800mgを1日5回 ②造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症の発症抑制: 1回200mgを1日5回, 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで投与 ③単純疱疹: 1回200mgを1日5回	①1回800mgを1日3回 ②③1回200mgを1日5回, 保存期では脱水予防, 尿量確保する必要あり					①1回800mgを1日2回 ②③1回200mgを1日2回, 保存期では脱水予防, 尿量確保する必要あり	①1日1回体重に応じて400-800mg, HD患者では毎HD後 ②③1回200mgを1日1-2回			
		152	ゾブラックス点滴静注用	○		1回5mg/kgを8時間毎に1時間以上かけて(尿管管での結晶析出による腎障害を避けるため), 7日間点滴静注, 脳炎・髄膜炎では, 1回10mg/kgまで増量可	腎機能正常者と同じ回投与量を24時間毎, 脱水を避け, ゆっくり投与(尿管管での結晶析出による腎障害を避けるため)					腎機能正常者と同じ回投与量を24時間毎, 脱水を避け, ゆっくり投与(尿管管での結晶析出による腎障害を避けるため)	腎機能正常者の1/2の回投与量を24時間毎, 脱水を避け, ゆっくり投与(尿管管での結晶析出による腎障害を避けるため)	3.5mg/kgを週3回, HD患者では毎HD後		
	バラシクロビル塩酸塩 (VACV)	153	バルトレックス錠・顆粒	○	○	①帯状疱疹: 1回1,000mgを1日3回 ②造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症(単純疱疹)の発症抑制: 1回500mgを1日2回, 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで投与 ③単純疱疹: 1回500mgを1日2回 ④水痘: 1回1,000mgを1日3回 ⑤生殖器ヘルペスの再発抑制: 1日1回500mg, HIV感染症患者には1回500mgを1日2回	①④1回1,000mgを12時間毎 ②③1回500mgを12時間毎 ⑤1回500mgを24時間毎, HIV感染症患者では1回500mgを12時間毎	①④1回1,000mgを24時間毎 ⑤1回250mgを24時間毎, HIV感染症患者では1回500mgを24時間毎		①④1回500mgを24時間毎 ⑤1回250mgを1日に1回	①④1回500mgを24時間毎 ⑤1回250mgを1日に1回	①1回500mgを24時間毎 ②③1回500mgを24時間毎 mg 保存期では脱水予防, 尿量確保する必要あり ③1回250mgを24時間毎, HIV感染症患者では1回500mgを24時間毎	①1回500mgを24時間毎 ②③1回500mgを24時間毎, HD患者では1回500mgを週3回HD後, それ以外の症例には他剤を選択 ③1回250mgを週3回HD後			
	ファミシクロビル (FCV)	154	ファミビル錠	△		①帯状疱疹: 1回500mgを1日3回 ②単純疱疹: 1回250mgを1日3回, 再発性の単純疱疹の場合は, 1回1,000mgを1日2回	①1回500mgを1日2回 ②1回250mgを1日3回	①1回500mgを1日1回 ②1回250mgを1日2回		①②1回250mgを1日に1回	①②1回250mgを1日に1回	①②HDでは週3回透析後に250mg, CAPDでは250mgを2日に1回				
ガンシクロビル (DHPG)	155	デノシン注	○	○	初期治療: 1回5mg/kgを12時間毎 維持治療: 1回5mg/kgを24時間毎 又は1日1回6mg/kgを週に5日 いずれも1時間以上かけて点滴静注	初期治療: 1回2.5mg/kgを12時間毎 維持治療: 1回2.5mg/kgを24時間毎	初期治療: 1回2.5mg/kgを24時間毎 維持治療: 1回1.25mg/kgを24時間毎		初期治療: 1回1.25mg/kgを24時間毎 維持治療: 1回0.625mg/kgを24時間毎	初期治療: 1回1.25mg/kgを48時間毎, HD患者は週3回HD後 維持治療: 1回0.625mg/kgを48時間毎, HD患者は週3回HD後						
サイトメガロウイルス感染症治療薬	バルガンシクロビル塩酸塩 (VGCV)	156	バキサネ錠・ドライシロップ	○	○	①サイトメガロウイルス感染症 初期治療: [錠・DS]1回900mgを1日2回, 食後 維持治療: [錠・DS]1回900mgを1日1回, 食後 ②臓器移植におけるサイトメガロウイルス感染症の発症抑制: [錠・DS]1回900mgを1日1回, 食後	①初期治療: [錠・DS]1回450mgを1日2回 維持治療: [錠・DS]1回450mgを1日1回 ②[錠・DS]1回450mgを1日1回	①初期治療: [錠・DS]1回450mgを1日1回 維持治療: [錠]1回450mgを1日1回 ②初期治療: [錠・DS]1回450mgを1日1回 維持治療: [錠]1回450mgを1日1回 ③[錠]1回450mgを2日に1回, [DS]1回225mgを1日1回		①初期治療: [錠]1回450mgを2日に1回, [DS]1回225mgを1日1回 維持治療: [錠]1回450mgを2日に1回, [DS]1回225mgを1日1回 ②[錠]1回450mgを2日に1回, [DS]1回225mgを1日1回	①[錠]1回450mg以下の設定になるため使用しない(DS, ガンシクロビル製剤の静注を考慮) [錠]①初期治療: 1回200mgを週3回HD後 維持治療: 1回100mgを週3回HD後 ②100mgを週3回HD後					
	ホスカルネットナトリウム水和物	157	点滴静注用ホスカルビル	○	禁	①後天性免疫不全症候群患者におけるサイトメガロウイルス肺炎, 造血幹細胞移植患者におけるサイトメガロウイルス感染症: 初期療法1回60mg/kgを1時間以上かけて1日3回, 又は90mg/kgを2時間以上かけて1日2回, 点滴静注, 初期治療は2-3週間以上行う ②造血幹細胞移植患者におけるサイトメガロウイルス血症: 初期療法1回60mg/kgを1時間以上かけて1日2回, 点滴静注, 初期治療は1-2週間以上行う いずれも, 維持療法は1日1回90-120mg/kgを2時間以上かけて点滴静注	体重によって初期投与量, 維持投与量が変化する。詳細は添付文書参照。					CCR 0.4 mL/min/kg 以下の患者では腎障害を悪化させるため使用を避ける				

分類	製剤名	一般名	番号	商品名	透析性	禁忌	腎障害	GFRまたはCCR(ml/min)						HD(血液透析) PD(腹膜透析)		
								常用							10>	
								>80	70	60	50	40	30			
								正常または軽度低下						末期腎不全		
								軽度～中等度低下			中等度～高度低下	高度低下				
インフルエンザ治療薬	アマンタジン塩酸塩	158	シメトレル錠・細粒		x	禁		①A型インフルエンザウイルス感染症：1日100mgを分1～2 1日1回100mg(高齢者及び腎障害のある患者では投与量の上限を1日100mg) →その他の適応は番号28を参照	1日100mgを2日 に1回	1日100mgを3日 に1回	大部分が未変化体として尿中に排泄されるので、蓄積により、意識障害、精神症状、痙攣、ミオクローヌス等の副作用が現れることがある。またHDによって少量しか除去されないため透析を必要とするような重篤な腎障害のある患者には禁忌					
	オセルタミビルリン酸塩	159	タミフルカプセル・ドライシロップ		○			治療：1回75mgを1日2回、5日間 予防：1回75mgを1日1回、7～10日間	治療：1回75mgを1日1回、5日間 予防：1回75mgを隔日、4～5回	治療：1回75mgを1回 予防(HD)：初回75mg、2回のHD後に75mg(計2回) 予防(PD、末期腎不全)：初回75mg、7日目に75mg追加(計2回)	推奨用量は確立されていないが、以下の用量が提案されている。					
	ペラミビル水和物	160	ラビアクタ点滴静注液		○			1回300mgを15分以上かけて単回点滴静注。合併症等により重症化するおそれのある患者には、1日1回600mgを15分以上かけて単回点滴静注。連日反復投与も可	通常：1回100mg 重症化のおそれがある患者：1回200mg 1日1回150mg(FDA)	通常：1回50mg 重症化のおそれがある患者：1回100mg 1日1回100mg(FDA)	具体的には設定されておらず、慎重に投与量を調整 初回100mg、以後は透析後2時間後に100mg追加する(FDA)、CAPDでは初回100mg、以後は1日毎に100mg追加する					
抗HIV薬(ヌクレオチド系逆転写酵素阻害薬(NRTI))	エムトリシタビン(FTC)	161	エムトリバカプセル		x			1回200mgを1日1回	1回200mgを2日に1回	1回200mgを3日に1回	1回200mgを4日に1回	HD患者はHD日はHD後に投与				
	テノホビル ジンプロキシリン酸塩(TDF)	162	ビリアード錠		○			1回300mgを1日1回	1回300mgを2日に1回	1回300mgを1週間に2回	1回300mgを1週間に1回投与、HD患者ではHD後、又は累積12時間のHD終了後に1回300mg					
	ラミブジン(3TC)	163	エビビル錠		x			1日300mgを分1～2	1日150mgを1日1回	初回150mg、その後100mgを1日1回	初回150mg、その後50mgを1日1回	初回50mg、その後25mgを1日1回				
	エムトリシタビン(FTC)/テノホビル ジンプロキシリン酸塩(TDF)配合	164	ツルバダ配合錠		○			1回1錠を1日1回	1回1錠を2日に1回	本剤は投与せず、エムトリシタビン製剤およびテノホビル製剤により、個別に用法・用量の調整を行う						
	エムトリシタビン(FTC)/テノホビルアラフェナドシドフマル酸塩(TAF)配合	165	デソコピ配合錠LT-HT		○			①非ナレビル又はコキシスタットと併用する場合は、[LT]1日1回1錠、併用しない場合は、[HT]1日1回1錠	本剤は投与せず、エムトリシタビン製剤およびテノホビル製剤により、個別に用法・用量の調整を行う							
	ラミブジン(3TC)/アバカビル酸塩(ABC)配合	167	エブジコム配合錠		○			1回1錠を1日1回	本剤は投与せず、ラミブジン製剤およびアバカビル製剤により、個別に用法・用量の調整を行う							
抗HIV薬(NRTI、NNRTI配合)	リルビリン塩酸塩(RPV)/エムトリシタビン(FTC)/テノホビルジシプロキシリン酸塩(TDF)配合	168	コムプレア配合錠		○			1回1錠を1日1回食事中または食直後	本剤は投与せず、リルビリン製剤、エムトリシタビン製剤およびテノホビル製剤により、個別に用法・用量の調整を行う							
	リルビリン塩酸塩(RPV)/エムトリシタビン(FTC)/テノホビルアラフェナドシドフマル酸塩(TAF)配合	169	オデブフィ配合錠		○			1回1錠を1日1回食事中または食直後	本剤は投与せず、リルビリン製剤、エムトリシタビン製剤およびテノホビル製剤により、個別に用法・用量の調整を行う							
B型肝炎治療薬	アデホビルヒボキシル	170	ヘプセラ錠		○			1日1回10mg	1日10mgを2日に1回	1日10mgを3日に1回	1日10mgを週1回	HD患者ではHD後				
	エンテカビル水和物	171	バラクード錠		x			1日1回0.5mg(ラミブジン不応患者には1mg、空腹時(食後2時間以降かつ次の食事の2時間以上前))	1回0.5mg(ラミブジン不応患者には1mg)を2日に1回	1回0.5mg(ラミブジン不応患者には1mg)を3日に1回	1回0.5mg(ラミブジン不応患者には1mg)を7日に1回、HD患者ではHD後	末期腎不全ではAUCが8、4倍上昇する(Clin Pharmacol Ther 85: 305-311, 2008)				
	テノホビルアラフェナドシドフマル酸塩	172	ベムリディ錠25mg		○			1日1回25mg	慎重投与				慎重投与(親化合物のAUC <sub>0-24</sub> が1.9倍に、テノホビルのAUC <sub>0-24</sub> が5.7倍に増加する)			
	テノホビルジンプロキシリン酸塩	173	テノゾ錠		○			1日1回300mg	1回300mgを2日に1回	1回300mgを3～4日に1回	1回300mgを7日に1回	未検討だが、1回300mgを7日に1回又は累積12時間の透析終了後に300mgを投与				
	ラミブジン	174	ゼフィックス錠		x			1日1回100mg	初回100mg、その後50mgを1日1回	初回100mg、その後25mgを1日1回	初回15mg、その後15mgを1日1回	初回35mg、その後10mgを1日1回				
C型肝炎治療薬(RNAポリメラーゼ阻害薬)	ソボグレル	175	ソボグレルカプセル/コバガス錠		x	禁		添付文書参照	禁忌(本剤の血中濃度が上昇し、重大な副作用が生じることがある。CCR < 30 ml/minではAUCが21%上昇する)				HD患者に投与する場合には200mgを1日1回投与(Renal Pharmacotherapy, 2013)			
C型肝炎治療薬(NS5Bポリメラーゼ阻害薬)	ソホブスビル	176	ソバルディ錠		x	禁		①セログループ2(ジェノタイプ)の場合：1日1回400mgを12週間、ソボグレルと併用 ②セログループ1(ジェノタイプ)又はセログループ2(ジェノタイプ)のいずれにも該当しない場合：1日1回400mgを24週間、ソボグレルと併用	30 ≤ eGFR < 50 ml/min/1.73m <sup>2</sup> ではソボブシルのAUCは107%上昇し、GS-331007のAUCは88%上昇する。併用されるソボグレルはCCR < 50ml/minで禁忌のため使えない				禁忌(重度の腎機能障害(eGFR < 30 ml/min/1.73m <sup>2</sup> )又は透析を必要とする腎不全の患者ではソボブシル及びその代謝物の血中濃度が上昇する)			
C型肝炎治療薬(配合薬)	ソホブスビル/レディバシル配合	177	ハーポニー配合錠		x	禁		1日1回1錠を12週間	慎重投与(ソボブシルのAUCは107%上昇し、GS-331007のAUCは88%上昇する)				禁忌(重度の腎機能障害(eGFR < 30 ml/min/1.73m <sup>2</sup> )又は透析を必要とする腎不全の患者ではソボブシル及びその代謝物の血中濃度が上昇する)			
C型肝炎治療薬(配合薬)	ソホブスビル/ベルパタシル配合	178	エブグルサ配合錠		x	禁		①C型慢性肝炎・C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善：1日1回1錠を2週間 ②C型非代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善：1日1回1錠を12週間	ソホブシルのAUCは107%上昇し、GS-331007のAUCは188%上昇する。併用されるソボグレルはCCR < 50ml/minで禁忌のため使えない				禁忌(重度の腎機能障害(eGFR < 30 ml/min/1.73m <sup>2</sup> )又は透析を必要とする腎不全の患者ではソボブシル及びその代謝物の血中濃度が上昇する)			
抗マラリア薬	アトバクソ/プログアニル塩酸塩配合	179	マラロン配合錠		A X T D	禁		治療：1日1回4錠を3日間、食後 予防：1日1回1錠を、マラリア流行地域到着24～48時間前より開始し、流行地域滞在在中及び流行地域を離れた後7日間、毎食後	腎機能正常者と同じ(Renal Pharmacotherapy, 2013)				重度の腎障害のある患者に治療の目的で投与する場合、本剤の配合成分であるプログアニルの排泄が遅延し、血中濃度が上昇することで副作用が現れる危険性が高いため、他剤の投与を考慮するど投与の可否を慎重に判断し、治療による有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。予防目的には禁忌。			
クロファラビン	180	エポルトラ点滴静注		○				1日1回52mg/m <sup>2</sup> 、2週間以上かけて点滴静注。5日間連日投与し、少なくとも9日間休薬	腎機能正常者と同じAUCが2倍になると推定されているため、1/2に減量が妥当かもしれない				投与成績が不明のため、不明だが、大幅な減量が必要と思われる。			
テガフル/ギメラシリン/オキサリタリウム	181	ティーエスワン配合カプセル・顆粒・OD錠		○	禁			①初回基準量より必要に応じて段階減量 ②初回基準量より、原則として段階減量 ③初回基準量より、原則として2段階減量 ④初回基準量より、原則として3段階減量 ⑤初回基準量より、原則として4段階減量 ⑥初回基準量より、原則として5段階減量 ⑦初回基準量より、原則として6段階減量 ⑧初回基準量より、原則として7段階減量 ⑨初回基準量より、原則として8段階減量 ⑩初回基準量より、原則として9段階減量 ⑪初回基準量より、原則として10段階減量 ⑫初回基準量より、原則として11段階減量 ⑬初回基準量より、原則として12段階減量 ⑭初回基準量より、原則として13段階減量 ⑮初回基準量より、原則として14段階減量 ⑯初回基準量より、原則として15段階減量 ⑰初回基準量より、原則として16段階減量 ⑱初回基準量より、原則として17段階減量 ⑲初回基準量より、原則として18段階減量 ⑳初回基準量より、原則として19段階減量 ㉑初回基準量より、原則として20段階減量 ㉒初回基準量より、原則として21段階減量 ㉓初回基準量より、原則として22段階減量 ㉔初回基準量より、原則として23段階減量 ㉕初回基準量より、原則として24段階減量 ㉖初回基準量より、原則として25段階減量 ㉗初回基準量より、原則として26段階減量 ㉘初回基準量より、原則として27段階減量 ㉙初回基準量より、原則として28段階減量 ㉚初回基準量より、原則として29段階減量 ㉛初回基準量より、原則として30段階減量 ㉜初回基準量より、原則として31段階減量 ㉝初回基準量より、原則として32段階減量 ㉞初回基準量より、原則として33段階減量 ㉟初回基準量より、原則として34段階減量 ㊱初回基準量より、原則として35段階減量 ㊲初回基準量より、原則として36段階減量 ㊳初回基準量より、原則として37段階減量 ㊴初回基準量より、原則として38段階減量 ㊵初回基準量より、原則として39段階減量 ㊶初回基準量より、原則として40段階減量 ㊷初回基準量より、原則として41段階減量 ㊸初回基準量より、原則として42段階減量 ㊹初回基準量より、原則として43段階減量 ㊺初回基準量より、原則として44段階減量 ㊻初回基準量より、原則として45段階減量 ㊼初回基準量より、原則として46段階減量 ㊽初回基準量より、原則として47段階減量 ㊾初回基準量より、原則として48段階減量 ㊿初回基準量より、原則として49段階減量 ㊽初回基準量より、原則として50段階減量	禁忌(重篤な腎機能障害のある患者では、フルオロウランの異化代謝物であるフルオロウランの排泄が遅延し、血中濃度が上昇することで副作用が現れる危険性が高いため、他剤の投与を考慮するど投与の可否を慎重に判断し、治療による有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。予防目的には禁忌。							
代謝拮抗薬	フルダラ錠	182	フルダラ錠					1日1回40mg/m <sup>2</sup> を5日間連日投与し23日間休薬	腎機能：体表面積により至適用量を決定する(添付文書参照)				禁忌(腎から排泄されるので、排泄遅延により副作用が強く現れるおそれがある)			
	フルダラ点滴静注	183	フルダラ点滴静注		x	禁		①貧血又は血小板減少症を伴う慢性リンパ性白血病、再発又は難治性の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫及びマントル細胞リンパ腫：1日20mg/m <sup>2</sup> 、5日間連日投与し23日間休薬 ②同種造血幹細胞移植の前治療：1日30mg/m <sup>2</sup> を6日間、いずれも30分かけて点滴静注	腎機能：体表面積により至適用量を決定する(添付文書参照)				禁忌(腎から排泄されるので、排泄遅延により副作用が強く現れるおそれがある)			
	ベトレキセートナトリウム水和物	184	アムタ注射用		○			1日1回500mg/m <sup>2</sup> を10分間かけて点滴静注。少なくとも20日間休薬	腎機能正常者と同じ(Up to Date)				重度の腎機能障害患者で、本剤に起因したと考えられる死亡が報告されているので、重度の腎機能障害患者には本剤を投与しないことが望ましい(腎機能障害患者に投与した十分な情報がない(Up to Date))			
メトレキセート錠	185	メトレキセート錠		○	禁		添付文書参照	50%に減量				禁忌(排泄遅延により副作用が強く現れるおそれがある)				
メトレキセート注射用・点滴静注液	186	メトレキセート注射用・点滴静注液		○	禁		添付文書参照	50%に減量				禁忌(排泄遅延により副作用が強く現れるおそれがある)				

分類	製剤名 一般名	番号	商品名	透折性	禁忌	腎障害	GFRまたはGCr(mL/min)							HD(血液透析) PD(腹膜透析)				
							常用量								20		10>	
							>80	70	60	50	40	30	20		10>			
							正常または軽度低下											
							軽度～中等度低下			中等度～高度低下		高度低下		末期腎不全				
抗腫瘍性抗生物質	ブレオマイシン塩酸塩	187	ブレオ注射用	○	禁	○	静注+皮下注・筋注:1回15～30 mg 動注:1回5～15 mg いずれも1週2回を原則として症状に応じて1日1回ないし週1回に適宜増減							50～75%に減量	禁忌(重篤な腎障害のある患者では、排洩機能が低下し、間質性肺炎・肺線維症等の重篤な肺状態を起すことがある)			
	ペブロマイシン硫酸塩	188	ペブ注射用	不明	禁	○	1回5～10 mgを週2～3回、静注、筋注、動注。症状に応じて1日1回連日から週1回まで適宜増減							慎重投与(副作用が強く現れるおそれがある)	禁忌(重篤な腎機能障害のある患者では、排洩機能が低下し、重篤な肺状態を起すことがある)			
白金製剤	カルボプラチン	189	バラプラチン注	不明	○	○	添付文書参照							カルバートの式、AUC目標値(GFR<25mg)によって算出し、単独投与の場合、初回はAUC7 mg/mL・minを、繰り返し投与のときはAUC4～5 mg/mL・minを目別に投与する。透析患者のGFRは10を代入する。ただし本法の血清値はJaffe法を用いているため、CG式を用いるとCCrよりもGFRに近似する。静注法で測定される日本でのCG式を用いるとCCrが高めに推算されるため過量投与となりやすく、血清Cr値に0.2を加える方法(Clin Cancer Res 6: 4733-4738, 2000)を体表面積補正を外したCGFRを用いることが推奨される		禁忌		
	シスプラチン	190	ランダ注/ブリプラチン注	○	禁	○	添付文書参照							75%に減量(Cancer Treat Rev 21: 33-64, 1995)	50%に減量(Cancer Treat Rev 21: 33-64, 1995)	禁忌 必要な場合には50%に減量して投与	必要な場合にはHD患者は透析後に50%をCAPD患者は50%に減量して投与	
免疫抑制薬	ミゾリピン	191	ブレディニン錠・OD錠	○	○	○	腎臓における拒否反応の抑制: 1日1～3 mg/kgを分1～3 (高用量)日6～10 mg/kgを分2～3、保険適応外 水クローゼ錠錠群、ループス腎炎、関節リウマチ: 1回50 mgを1日3回							1/2～1/4量	1/4～1/10量			
	インターフェオンα	192	スミアフェオン注・注DS	×	○	○	添付文書参照							1日1回300万IUまで	1日1回300万IUを週3回まで			
インターフェオン製剤	ベグインターフェオンα-2b	193	ベグイントロン皮下注	×	○	○	①C型慢性肝炎・C型代償性肝硬変: リバビリンと併用し、1回1.5 μg/kg(C型代償性肝硬変では1回1.0 μg/kg)を週1回、皮下注 ②悪性黒色腫: 8週目までは1回6 μg/kgを週1回、9週目以降は1回3 μg/kgを週1回、皮下注							CCrが50 mL/min以下の腎機能障害のある患者ではリバビリンが禁忌であり、リバビリンとの併用の場合は投与できない(使用する場合はCCr 30～50 mL/min: 25%減量、CCr 10～29 mL/min: 50%減量、高度腎機能低下患者ではCCrが健常者の約1/2に低下するため透析患者では1/2に減量)				
	インターロイキン製剤	テセロイキン	194	イムネース注	×	○	1日70万IUを分1～2、血管内腫では最大140万IU、腎臓では最大1日210万IU							減量が必要だがデータなし	1日1回35～70万IU			
前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬	タダラフィ	195	ザルティア錠	×	禁	○	1日1回5 mg							1日1回2.5 mgから開始することを考慮する 中等度腎障害患者に毎日経口投与したとき、AUC <sub>0-∞</sub> は健康成人の約100%増加する	禁忌(重篤な腎障害では本剤の血中濃度が上昇し、使用経験が限られている)			
ペプチド系抗利尿ホルモン拮抗薬	デスマプレニン酢酸塩水和物	196	ミニリメルトOD錠	○	禁	○	夜尿症: [120, 240 μg]1日1回120 μgを就寝前より開始し、1日240 μgまで増量可。 中低圧症併発症: [60, 120, 240 μg]1回60～120 μgを分1～3、最大1回240 μg、最大1日720 μg							禁忌(血中半減期の延長、血中濃度の増加が認められる)				
乾癬治療薬(活性型VD外用薬)	カルシポトリオール	197	トボネックス軟膏	×	○	○	1日2回、適量を患部に塗布。1週間に90 gを超えないこと							腎機能の低下によりカルシウムの排洩が減少することから、血清カルシウム値が上昇し腎機能が悪化しやすいため腎機能低下症例への使用は推奨しない。使用する場合には定期的な血清カルシウム濃度、腎機能をモニターしながら投与すること。				
	カルシポトリオール水和物/ベタメタゾンジプロピオンエステル	198	トボベット軟膏	×	○	○	1日1回、適量を患部に塗布。1週間に90 gを超えないこと											
	タカリシール水和物	199	ボンアルファ軟膏・クリーム・ローション/ボンアルファハイ軟膏・ハイローション	×	○	○	[ボンアルファ]1日2回、[ボンアルファハイ]1日1回、適量を患部に塗布。[ボンアルファハイ]外用製剤として1日最大10 g、他のタカリシール水和物外用剤と併用する場合は、1日200 μgまで											
	マキサカルシトール	200	オキサソール軟膏/ローション	×	○	○	1日2回、適量を患部に塗布。外用製剤として最大1日10g											
	マキサカルシトール/ベタメタゾン酢酸エステル/プロピオン酸エステル	201	マードゥエックス軟膏	×	○	○	1日1回、適量を患部に塗布。外用製剤として最大1日10g											
禁煙補助薬	バレニクリン酒石酸塩	202	チャンピックス錠	×	○	○	1～3日目は0.5 mgを1日1回食後、4～7日目は0.5 mgを1日2回朝夕食後、8日目を以降は1 mgを1日2回朝夕食後。投与期間は12週間							腎機能正常者と同じ	1日1回0.5 mgを開始し、必要に応じて増量し、最大1日1回0.5 mgを1日2回			
アルコール依存症治療薬	アカンプロサートカルシウム	203	レグテクト錠	○	禁	○	1回666 mgを1日3回、食後							1回333 mgを1日3回(Renal Pharmacotherapy, 2013)	禁忌(高度の腎障害のある患者では排洩遅延により、高い血中濃度が持続するおそれがある)			
イオン性高浸透圧性造影剤	アミドリゾ酸ナトリウムメグルミン	204	ウログラフィン注	×	禁	○	①逆行性尿路造影: [60%]20～150 mL(原液又は2～4倍希釈) ②内視鏡的逆行性経膵胆管造影: [60%]20～40 mL ③経皮経肝胆道造影: [60%]20～60 mL ④関節造影: [60%]1～10 mL ⑤喉頭造影: [76%]0.5～2 mL							禁忌				
	イオン性低浸透圧性造影剤	イオキサザル酸	205	ヘキサブリックス注	○	禁	○	①各種血管造影: 5～60 mL ②CT: 50～100 mL ③静脈性尿路造影: 20～100 mL ④デジタルX線撮影法による静脈性血管造影: 30～40 mL 詳細は添付文書参照							原則禁忌(重篤な腎障害(無尿等)のある患者、本剤の主たる排洩臓器は腎臓であり、腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする			
非イオン性造影剤	イオパミドール	206	イオパミロン注	○	禁	○	①各種血管造影: 1回5～50 mL ②CT: 1回100～200 mL ③静脈性尿路造影: 1回20～200 mL ④逆行性尿路造影: 1回5～400 mL ⑤デジタルX線撮影法による静脈性血管造影: 1回30～50 mL ⑥デジタルX線撮影法による動脈性血管造影: 1回3～50 mL 詳細は添付文書参照							原則禁忌(重篤な腎障害(無尿等)のある患者、本剤の主たる排洩臓器は腎臓であり、腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする				
	イオプロミド	207	プロスコープ注/シリンジ	○	禁	○	①各種血管造影: 1回3～50 mL ②CT: 1回50～100 mL ③静脈性尿路造影: 1回50～100 mL ④デジタルX線撮影法による静脈性血管造影: 1回20～40 mL ⑤デジタルX線撮影法による動脈性血管造影: 1回3～30 mL 詳細は添付文書参照							原則禁忌(重篤な腎障害(無尿等)のある患者、本剤の主たる排洩臓器は腎臓であり、腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする				
	イオヘキソール	208	オムニパーク注	○	禁	○	添付文書参照							原則禁忌(重篤な腎障害(無尿等)のある患者、本剤の主たる排洩臓器は腎臓であり、腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする				
	イオベルソール	209	オプチレイ注/シリンジ	○	禁	○	①各種血管造影: 1回5～60 mL ②CT: 1回50～150 mL ③静脈性尿路造影: 1回40～100 mL ④デジタルX線撮影法による静脈性血管造影: 1回30～60 mL ⑤デジタルX線撮影法による動脈性血管造影: 1回3～50 mL 詳細は添付文書参照							原則禁忌(重篤な腎障害(無尿等)のある患者、本剤の主たる排洩臓器は腎臓であり、腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする				
	イオメプロール	210	イオメロン注	○	禁	○	①各種血管造影: 1回3～80 mL ②CT: 1回40～100 mL ③静脈性尿路造影: 1回30～100 mL ④デジタルX線撮影法による静脈性血管造影: 1回10～50 mL ⑤デジタルX線撮影法による動脈性血管造影: 1回3～40 mL 詳細は添付文書参照							原則禁忌(重篤な腎障害(無尿等)のある患者、本剤の主たる排洩臓器は腎臓であり、腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする				
非イオン性等浸透圧性造影剤	イオトラン	211	イソピスト注	○	禁	○	①関節造影: 1回1～10 mLを関節腔内に注入 ②脊髄造影、CTIにおける脳室、脳槽、脊髄造影: 1回6～10 mL ③脳血管造影: [270]4～15 mL ④四肢血管造影: [270]8～80 mL、[320]12～70 mL ⑤逆行性尿路造影: [270]20～200 mL ⑥内視鏡的逆行性経膵胆管造影: [270]3～40 mL							原則禁忌(重篤な腎障害(無尿等)のある患者、本剤の主たる排洩臓器は腎臓であり、腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする				
	イオキサザノール	212	ビジバーク注	○	禁	○	①各種血管造影: [270]4～15 mL ②四肢血管造影: [270]8～80 mL、[320]12～70 mL ③逆行性尿路造影: [270]20～200 mL ④内視鏡的逆行性経膵胆管造影: [270]3～40 mL							原則禁忌(重篤な腎障害(無尿等)のある患者、本剤の主たる排洩臓器は腎臓であり、腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする				
MRI用造影剤	ガドリブリアム水和物	213	オムニスキャン静注32%シリンジ	○	禁	○	0.2 mL/kg(腎臓を対象とする場合は10.1 mL/kg)を静注							禁忌(重篤な腎障害のある患者では腎性全身性線維症(NSF)発症の危険性が高く、腎機能低下患者では、排洩遅延から急性腎障害等の症状が悪化するおそれがある)				
	ガドリメル酸メグルミン	214	マグネスコープ静注・シリンジ	不明	禁	○	0.2 mL/kg(腎臓を対象とする場合は10.1 mL/kg)を静注							禁忌(重篤な腎障害のある患者では腎性全身性線維症(NSF)発症の危険性が高く、腎機能低下患者では、排洩遅延から急性腎障害等の症状が悪化するおそれがある)				
	ガドリベンテ酸メグルミン	215	マグネピスト静注・シリンジ	不明	禁	○	0.2 mL/kg(腎臓を対象とする場合は10.1 mL/kg、腹部から下肢まで連続して血管造影する場合10.4 mL/kg)を静注							禁忌(重篤な腎障害のある患者では腎性全身性線維症(NSF)発症の危険性が高く、腎機能低下患者では、排洩遅延から急性腎障害等の症状が悪化するおそれがある)				